

バレエ「白鳥の湖」特集



6月、東京文化会館ではいくつかのバレエ公演が予定されており、そのうち二つのバレエ団によって「白鳥の湖」が上演されます。バレエといえば「白鳥の湖」を思い浮かべる人も少なくないのでは？この演目、演出・振付によって結末が変わったり、音楽の順番が変わったり、衣装やセットも異なり…なかなか奥深い作品なのです！

【あらすじ】

王子ジークフリートは王妃に花嫁選びを命じられ憂鬱であったが、気晴らしに出かけた湖で白鳥が美しい娘に変身する姿を目の当たりにし、恋に落ちてしまう。娘はオデットという名で、悪魔の魔法で白鳥に変えられてしまったが、彼女に永遠の愛を誓う若者が現ればその魔法は解けると語る。翌日、花嫁選びの舞踏会で王子はオデットに瓜二つのオディール（実は悪魔の娘）に出会い、誤って愛を誓ってしまう。その後自分の過ちに気付いた王子は、許しを乞いに湖へ急ぐが…。

【歴史をおさらい】

1877年、ベギシェフ、グリツェルの台本、ライジングー振付により世界初演されるが、評価はあまり芳しくなかった。その後1895年にプティパ、イワーノフの共同振付による復活上演が行われ、これが大成功。以後、プティパ、イワーノフ原振付が多く踏襲されるようになる。チャイコフスキーの音楽においてもこの復活上演の際にバレエ制作者たちによってかなり手が加えられ、初演時とは異なるものになった。

【生か死か】

オデットと王子は生きて結ばれるのか、はたまた破局してしまうのか…。もとの台本では、二人の死をもってその愛の力で悪魔の呪いがとけ、天国で結ばれるという結末だった。しかし社会主義時代のソビエトにおいて「現世で悪を懲らし幸運を勝ち取る」というハッピーエンドのヴァージョンが生まれ、現在でも旧ソビエト圏の多くのバレエ団がハッピーエンドの演出を用いている。一方、西側の国々では社会主義的な改変が行われる前の舞踊譜が伝わっていたため、多くが悲劇的な結末をとっている。

【おすすめ！「白鳥の湖」映像資料】

◆キーロフバレエ団

セルゲーエフ版 **DVD1190**

旧ソビエト圏のため、結末はハッピーエンド。詳しい解説書も付いてわかりやすい。

◆英国ロイヤルバレエ団

ダウエル版 **DVD1506**

原振付の資料を精察し、忠実な復元を目指したもの。第3幕のナポリの踊りはアシュトンの振付。

◆オーストラリアバレエ団

マーフィー版 **DVD1496**

かつてのイギリス王室スキャンダルを彷彿とさせる内容に読み替えられた、斬新な演出。

◆パリ・オペラ座バレエ団

ヌレエフ版 **DVD1154**

王子の家庭教師が、彼を陥れる悪魔と同一人物である設定。王子の精神世界に重きが置かれている。

◆アドヴェンチャーズ・イン・

モーションピクチャーズ

ポーン版 **BLD437**

映画でも話題になった、男性たちの白鳥。王子の心理描写に注目。

◆ミラノ・スカラ座バレエ団

ブルメイステル版 **DVD573**

物語に説得力があり、1953年の初演以来人気のある演出。チャイコフスキーの原曲も挿入。

音楽資料室では20点以上の「白鳥の湖」映像資料を所蔵しています。さまざまな資料を見比べてみると、音楽の違い、振付の違いなどお楽しみいただけるのではないのでしょうか♪

最近受け入れた新刊・新譜から、おすすめの資料をご紹介します♪



【音源資料】

『遙かなる恋人に寄す』北村朋幹(Pf) 請求記号：6J3.01

現在東京芸術大学に在学中の若き俊英ピアニストによる、初めてのアルバム。シューマンの《幻想曲》を中心に、ベートーヴェンの歌曲をリストが編曲した表題曲に始まり、シューマンの歌曲をリストが編曲した《春の夜》、《献呈》で結ばれている。瑞々しい音楽は一つの物語を語るように綴られおり、この構成は本人の意図するところ。リブレットの執筆も全て本人によるもので、その言葉の端々からも彼の音楽に対する理解を窺い知ることができる。

『シューマン：夜曲集～ドイツ・ロマン派の光と影』四戸世紀(CI)、シピリ(Pf)

請求記号：4G5.80

ベルリン交響楽団や読売日響で首席クラリネット奏者を務めた四戸世紀と、ソロ・伴奏の両面で活躍しているピアニスト アントニー・シピリによる、ドイツのソロクラリネット音楽集。一般的なウェーバーやブラームスの作品ではなく、ラインベルガー、ライネッケ、ノルベルト・ブルグミュラー（ピアノ練習曲で有名なブルグミュラーの弟）といった、これまであまり録音されてこなかった作曲家の作品を多く取り入れている。二人の奏者の息遣いが伝わってくる録音で、その丁寧な音楽に惹きこまれてしまう。

【映像資料】

『オフエンバックのタベ』オッター(M-sop)、ナウリ(Br)、ミンコフスキ(指揮)、グルノーブル・ルーブル宮合唱団&音楽隊 他 請求記号：DVD1655

2001年12月に行われたパリ・シャトレ座での演奏会のライブ収録。昨今人気の高いマルク・ミンコフスキとグルノーブル・ルーブル宮音楽隊による生き生きとした音楽は、まさにわくわくするような「オフエンバックのタベ」にふさわしい。また、メゾ・ソプラノのアンネ・ゾフィー・フォン・オッターの歌声と豊かな表現力には脱帽。心から音楽を楽しんでいる演奏家たち、そして聴衆たちから、たくさんの元気と笑顔を分けてもらえる。ああ、音楽って本当に楽しい！

【図書】

『小澤征爾さんと、音楽について話をする』小澤征爾×村上春樹 新潮社

請求記号：O.9-Oz1-11

前号でも触れた対談本。さまざまな録音物を聴きながら、二人が会話していく。読み進めるうちに、その様子を隣で聴かせてもらっているような、静かで心地よい感覚になる。小澤の発する言葉ひとつひとつに、その実直さを感じずにはいられないのはいつものこと。それが、彼の音楽にすべてつながっているのであろう。話題の一つにもなっているカーネギー・ホールでの演奏会のCDは、請求記号：5A9.56でどうぞ。